

## 14 15

1. 紺野 (8:16)
2. 内山 (8:28)
3. 大嶋 (8:37)
4. 猪飼 (8:43)
5. 篠原 (8:49)
6. 山川 (8:51)
7. 高橋 (8:55)
8. 金澤 (9:03)
9. 西村(宏) (9:10)
9. 円井 (9:10)

## 16 17

コントロールから東へ脱出し、小道を使って尾根をたどるルート（E）Eと前半は一緒に最後に尾根を使わずにコントロール付近まで道を使うルート（F）コントロールから北へ脱出して17番コントロールの西側の急斜面を登るルート（G）等が考えられるが、入賞者はEのルートを選択した人が多い。篠原と安井はコントロールから北に脱出してGルートの小道を利用した後、Eルートの小道をたどっている。西村(秀)は、Eのルートで脱出した後でGのルートをたどるという最も登距離が多いルートを選択しているが、区間4位と健闘。このレッグで高橋は、16番コントロールの時点で1秒差だった篠原に2分近い差をつけるベストラップを出し、優勝に大きく近づいている。また、ここまでトップだった紺野は、Eルートをたどろうと考えたものの途中で現在地ロストし、7分半近いミスをして7位まで順位を落とした。

E：高橋、小野田、内山

G + E：篠原、安井

## 16 17

## 17

- |                 |                    |                    |
|-----------------|--------------------|--------------------|
| 1. 高橋 (8:51)    | 1. 高橋 (1:22:49)    | 1. 高橋 (1:29:08)    |
| 2. 小野田 (9:06)   | 2. 篠原 (1:24:39)    | 2. 篠原 (1:30:51)    |
| 3. 内山 (9:23)    | 3. 小野田 (1:24:48)   | 3. 小野田 (1:31:23)   |
| 4. 西村(秀) (9:41) | 4. 内山 (1:25:55)    | 4. 安井 (1:33:06)    |
| 5. 猪飼 (9:53)    | 5. 安井 (1:27:04)    | 5. 内山 (1:33:11)    |
| 6. 許田 (10:03)   | 6. 金澤 (1:27:21)    | 6. 紺野 (1:33:22)    |
| 7. 後藤 (10:04)   | 7. 紺野 (1:28:07)    | 7. 金澤 (1:34:18)    |
| 8. 兼田 (10:06)   | 8. 兼田 (1:30:07)    | 8. 兼田 (1:37:13)    |
| 8. 山川 (10:06)   | 9. 西村(秀) (1:31:02) | 9. 西村(秀) (1:38:08) |
| 10. 安井 (10:13)  | 10. 許田 (1:32:05)   | 10. 許田 (1:39:30)   |

高橋と篠原が序盤から安定して上位をキープし、後半のロングレッグ（17番）でベストラップを出した高橋が優勝を勝ち取った。スタート直後に少々出遅れた小野田は中盤からは高橋・篠原に次ぐ順位を守り続けて3位に入賞。安井と内山、金澤は中盤以降金澤が若干リードして入賞争いを続けていたが、17番で内山が1分強程度リードして5位に、18番以降で安井が、細かいタイムロスを重ねた金澤に1分近い差をつけ、さらに内山をも僅差で押さえて4位に入賞した。6位には、17番で大きく崩れた紺野が、その後のショートレッグで金澤をかわして入賞した。

## 総括

今回の選手権クラスのコースは、テレインの制約を考慮した結果、WEでは後半の部分で長くコースを組むことが出来ない為、前半に勝負レッグを置いた。多彩なルート選択が可能な後半のエリアを使えない為、その分中盤のミドルレッグの部分ではルート選択の幅を広げた。MEは、前半は幅の狭い尾根で組んでいる為、ルート選択の幅の少ないショートレッグとミドルレッグを中心とした。そして後半では、テレインの特性が最大限に生きるように、前半とは課題を一変させ、多彩なルート選択が可能な上に高度なナビゲーションテクニックを要求する、勝負の分かれ目となり得るロングレッグを置いた。後半で使用したエリアに関しては、公平を期す為、(選手権クラスに関しては)1年前までオープンになっていた部分を使わないように(ベストルートにもしないように)工夫してコントロール位置を決めた。

今回のテレインは全体的にテクニカルではあるが、非常に植生が良く地形が遠くからでもよく見えることに加え、今年度の学生のレベルも考慮して、コースの難易度は若干高めに設定した。併設クラスに関しては、出来るだけ複数のルートが見えるように、また、それぞれのクラスに合った難易度の範囲内で最大限に楽しめるようにコースを設定した。

今回は、特に選手権クラスに関しては、コースを設定するにあたって学生の過去のレースの記録を参考にし、幾度もの試走を重ねた結果、このコースに落ち着いた。WE、ME共にウイニング設定よりも優勝タイムが長くなってしまったが、WEに関しては、+3分ということで、特に問題はなかったと考えている。MEに関しても、選手たちのラップタイムから考えると、距離や登距離は許容範囲内であったと思われる。ただ、コースを設定する上で、選手たちのミスをどこまで考慮してコースを組むべきか、その難しさが現われた結果ととらえている。